



弁当給食期間を終えて思うこと

校長 窪田 俊介

給食室の改修に伴い、11月30日からの約3週間は、弁当業者による給食となりました。子供たちが楽しみにしている給食が、業者からの弁当給食になることで、どのような影響がでるか少し心配していましたが、「分量はどうか」「味はどうか」「寒い時期なので保温状態はどうか」等、いろいろと気になることはありましたが、弁当給食初日の子供たちの食事の様子からは、概ね満足して食べていることが分かり安心しました。子供たちからは、「みんなで弁当を食べていると校外学習に来ているような感じで楽しい」といったような声も聞かれ、普段の学校給食とは異なる非日常的な給食時間を楽しんでいる雰囲気のクラスもありました。



とはいえ、弁当給食も期間が長くなってくると、これまで食べてきた学校給食が恋しくなってきます。主菜、副菜、汁物とそれぞれ食器に盛り付けられる学校給食は、まずは見た目の楽しさと良い香りから食欲が湧いてきます。また、特にこの寒い時期には温かい汁物が毎日用意されることが、何よりも有難いことだと実感しました。毎日の献立に関しても、いろいろと工夫が凝らされており、郷土の食材を意識的に使用した「高岡食育丼の日」が毎月実施されたり、ハロウィーンやクリスマス、節分等の行事と関連付けた献立が用意されたりと、味だけでなく、郷土料理や食文化についても学ぶことができるようになっていきます。

学校給食は、栄養バランスのとれた食事を摂取するだけでなく、食育の推進も目的としています。毎日の給食には、多くの人の労力や思いが込められて、届けられているということ、今回の弁当給食の体験を通して改めて実感することができました。

3学期からは、また通常の給食が再開されます。今後はこうしたいろいろな方々への感謝の思いをもち、味わって食べることが出来る木津っ子が増えていってほしいと思います。

芸能鑑賞会 11/21

芸能鑑賞会として、富山県出身の落語家 三遊亭良楽さんをお招きし、全校児童が落語を鑑賞しました。これまで、落語を実際に聞いた経験がほぼない児童にとって、落語を理解できるのか少し不安でしたが、表情や仕草、声色等、さすがはプロの噺家と思わせる話術で、子供たちを笑いの渦に引き込んでくれました。演目のあとは、良楽さんへのインタビューコーナーも用意され、子供たちの質問に丁寧に答えていただきました。



創校記念式 12/1

創立42年となる木津小学校の創校記念式を、全校児童で行いました。6年生による呼びかけ「木津小学校のあゆみ」では、総合的な学習の時間で調べた木津小学校の歴史や地域の様子などを、スライドショーを用いながら分かりやすく発表してくれました。全校児童が木津小学校の歴史についての知識を深めるとともに、これからもよい伝統を築いていこうという意欲を高める機会となりました。

